観光は平和へのパスポート
国連世界観光年宣言

JHSたより

平成27年3月25日(15,000部)発行
2015.3 Vol.53

学校法人日本ホテル学院
発行所／専門学校日本ホテルスクール
一般財団法人 日本ホテル教育センター
〒164-0003東京都中野区東中野3丁目15番14号 TEL.03-3360-8231(代)
http://www.jhs.ac.jp http://www.jec-jp.org/ FAX.03-3360-8584

和食の世界文化遺産登録に伴い
日英対訳の和食入門編を制作
～和食は、日本人の食文化の源～

浦安ブライトンホテル「京懐石　蛍」 サービススタッフより作法を学ぶ学生

2013年12月、「和食」が世界で5番目にユネスコの無形文化遺産に登録されました。これにより日本人の伝統的な食文化が人類の無形文化遺産を代表するものの一つとして認証されました。和食の具体的なメュー内容が認証されたものではなく、「自然尊重」という日本人の精神を具現化した社会的慣習としての食文化が世界的に認められたもので、その保護と伝承を図ることがユネスコの意図です。同様の趣旨で、2010年に「フランスの美食術」、「地中海料理」、「メキシコの伝統料理」、2011年に「トルコのケシケシの伝統料理」が登録されています。

本校では、2011年4月、和食に関係する業界人を対象に、和食の教材「基本編」と「実務編」を立上げ「和食検定」を発足しました。これは世界的に日本食の評価が高いにも係わらず、日本人、特に若い世代の日本人に和食離れ、和食の理解やマナー不足などが進行していることに危機感を感じ、グローバル化の社会にあっても、国際人である前に日本人として日本の食文化をしっかりと理解し、外国人に説明できるようにしなければとの認識に基づき、開発したものです。

幸いにも、我々が開発してから二年後に、日本の食文化が「和食」という名称で、世界文化遺産に登録が発表されました。業界人を対象に開発した「和食検定」には、外国人や一般の方々からも問い合わせがあることから、これらの人々をも対象とした、誰にでも理解できるように「入門編」を制作、日本語に加えて英語も取り入れ日英対訳版としました。これにより、初心者から業界人まで、「入門編」～「基本編」～「実務編」と段階的、かつ体系的に「和食」を学習する教材や機会が整備されたことになります。

本校では、ホテル、レストラン、ブライダルの業界を対象に、どちらかと言えば、「洋」が大部分を占めていましたが、和食マナー体験や和食検定対策など「和」の世界も取り入れ教育体系を整理していく方針です。海外研修旅行で日本のことを知らず、答えられなくて恥辱を味わった人も多いかと思われます。英語だけではなく、自国の文化を理解し、日本人の誇りを持ち、異文化を尊重できる日本人が、国際化社会では、尊敬されます。世界的に評価されている「和食」へも興味関心を高めて行きましょう。

ハイアット リージェンシー 東京「日本料理　佳香」
和食のマネージャーより料理の説明を受ける学生

HRSサービスコンクール3連覇
― 素晴らしい栄誉 ―

校長　石塚 勉

近年、内外での発表会やコンクールに参加する機会で、その出来栄えが素晴らしくなってきました。学内行事でありながらも、多くの業界幹部のご協力を頂いて開催される日本語・英語弁論大会、ブライダル発表会、HRSサービスコンクールなどがその代表格です。何れも高い評価を得ています。

去る2月19日、一般社団法人日本ホテルレストランサービス技能協会主催の東京ビッグサイトで行われた第9回HRSサービスコンクール2015、カレッジ部門では、全国22名の競技者が課題を演じ、金賞：鈴木梨里(2年)、銀賞：大竹さくら(1年)、入賞：吉昌亜稀子(2年)という快挙。第7回HRSサービスコンクールから大会3連覇を達成し、併せて「最優秀学校賞」を受賞しました。因みに、2013年は、金賞：山本 舞(2年)、2014年は、金賞：緑川知恵子(2年)、銀賞：今井悠介(2年)、銅賞：松岡史花(1年)、入賞：金子洋介(2年)の結果でした。(敬称略)

こうした成果は、学生と教職員が力を合わせて取り組んだ証しであり、出場者自身が成長する、入賞で自信ができる、先輩や後輩の励みになる、そして学校にも大変な栄誉になる…と良い連鎖が生まれてきます。これらの発表会やコンクールに望む準備過程、そしてその結果、共に素晴らしいものがありました。あらゆる面で高水準を目指して行きましょう。

2014年度　第23回弁論大会を開催

～10名の弁士　最高のパフォーマンスを披露～

－最優秀賞　日本語部門　石原 知世さん　　英語部門　石井 翼さん－

審査員の皆様と弁士

第23回弁論大会が11月13日、なかのZEROホールにて開催され、全校在校生約900名、ホテル総支配人の方々などのゲスト審査員15名、内部審査員3名、教職員28名、計約950名の聴衆を前に、総勢34名が参加した予選を通過した日本語部門5名、英語部門5名、計10名の弁士が熱弁を振るいました。

この弁論大会は「表現力、語学力の向上」「同世代間の考え方・価値観の共有」などを目的として開始され、今回で23回目を迎えました。

日本語部門最優秀賞は、夜間部ホテル科2年石原 知世さんの「第三の言語『手話』」、優秀賞は昼間部ブライダル科2年齋藤 菜月さんの「メッセンジャー」。英語部門最優秀賞は、昼間部英語専攻科2年石井 翼さんの「Jyouge-Kankei」、優秀賞は昼間部ホテル科1年郭 子靖さんの「My Grandfather's Hotel」が選ばれました。

最優秀賞受賞者
左から　矢島隆彦様、石原さん、石井さん、石塚校長

副賞として日本語部門最優秀賞受賞者には、石塚校長よりヒルトン東京ベイ朝食付ペア宿泊券、英語部門最優秀賞受賞者には日本スターウッド・ホテル株式会社　営業・マーケティング本部長　矢島隆彦様よりウエスティンホテル東京朝食付ペア宿泊券が贈られました。

また、両部門優秀賞受賞者には、パーク ハイアット 東京総支配人のフィリップ ルデサー様よりペアランチ券が贈られました。

弁士紹介（発表順・敬称略）

■日本語部門

2年	小泉 冬萌	ユニバーサルデザインへの進化
1年	鈴木 千佳	笑顔の力
2年	齋藤 菜月	メッセンジャー
2年	佐藤 椎奈	いま新しい時代へ
2年	石原 知世	第三の言語「手話」

■英語部門

2年	吉昌 亜稀子	Understanding Interpersonal Communication
1年	近藤 菜々美	How to Explain "Fantaastic Japan"
1年	大澤 貴文	The Supporting Actor
1年	郭 子靖	My Grandfather's Hotel
2年	石井 翼	Jyouge-Kankei

弁士の紹介

優秀賞受賞者
左から　フィリップ ルデサー様、郭さん、齋藤さん、石塚校長

950名の聴衆を前に

■審査員

IHG ANA ホテルズグループジャパン	本部長	ヴィクター 大隅 様
アマン東京	総支配人	Jeffrey F. Seward　様
ANAインターコンチネンタルホテル東京	副総支配人	田村　滋　様
株式会社MT J-ホスピタリティ	代表取締役	田中 勝 様
株式会社オータパブリケイションズ	代表取締役社長	太田 進 様
株式会社観光経済新聞社	企画推進部長	江口 英一 様
ザ・ペニンシュラ 東京	副総支配人	Mark Choon 様
日本スターウッド・ホテル株式会社	営業・マーケティング本部長	矢島 隆彦 様
公益社団法人日本ブライダル文化振興協会	専務理事	野田 兼義 様
パーク ハイアット 東京	総支配人	Philippe　Roux-Dessarps 様
フォーシーズンズホテル丸の内 東京	ホテルマネージャー	岸 琢也 様
株式会社プリンスホテル	顧問	小林 信次 様
ホスピタリティツーリズム専門学校	校長	中村 裕 様
横浜ベイホテル東急	総支配人	小林 秀樹 様
六本木ヒルズクラブ	総支配人	Samuel Dabinett　様

ゲスト審査員のアマン東京総支配人ジェフリー　スワード氏はメッセージの中で「ストーリーを語るときには心に響くものが必要です。お客様もそれを期待しています。心に響くもの、それには言葉が必要ですが、それ以外に、例えば、情熱、笑顔、個性、そしてそれぞれの国の文化を語る力などの多様な要素が必要です。

このような素晴らしいスピーチコンテンストに参加できましたことは光栄です」とメッセージをいただきました。

第32回 全国専門学校英語スピーチコンテスト

～ホテル科1年近藤菜々美が出場～

第32回全国専門学校英語スピーチコンテストが12月1日、中央区立日本橋公会堂で開催されました。本校からは、夜間部ホテル科1年近藤菜々美さんが出場しました。

参加賞を手に笑顔の近藤さん

本大会は、全国専門学校から選ばれた10校10名の代表者が、自身の経験だけでなく、国際的なテーマや国内のテーマ、各自設定したテーマを英語でスピーチします。どの出場者のスピーチ内容も聞き手に共感や関心を抱かせるようなメッセージ性の強い弁論でした。

左から、江口先生、武内副校長、近藤さん、井口先生、石塚校長

近藤さんは『How to Explain "Fantastic Japan"：日本の魅力の伝え方』という題名で、日本の魅力と外国人観光客に対して、どのような取り組みができるかを提案したスピーチを発表しました。

夜間部１年生　海外研修旅行レポート
～ フィリピン　UPH大学との異文化交流 ～

夜間部1年生の海外研修旅行を 2014 年 12 月 8 日～ 12 月 14 日の期間で実施、4クラス計 143 名の学生が 3 泊 4 日間でフィリピンの首都マニラを訪問しました。

今年度の1年生の海外研修旅行は、昨年に続き 2012 年に本校と提携したフィリピン・マニラにあるパーペチュアル・ヘルプ・システム大学（UPH）との交流を深める内容となりました。

大学到着後のセレモニーでは、UPH ロレット学長による挨拶から始まり、在籍する学生による民族衣装での伝統的なダンスやファッションショーなどで盛大な歓迎を受けました。

また、滞在中はホスピタリティ・マネジメント&ツーリズム学部の学生と交流会を通しながら、異文化を体験する事ができました。

空港到着後から熱烈な歓迎を受ける

UPH 歓迎セレモニー
民族衣装でのファッションショーや
伝統的なダンスを披露

UPH 大学メインキャンパス

UPH　チャペルを利用して模擬挙式を体感

滞在中の 4 日間とも各クラスに 10 名前後の UPH の学生が同行して、イントラムロスエリア、リサール記念館、サンチャゴ要塞などの市内観光、マニラ中心地のマカティ地区見学などを行い、UPH の学生との英語でのコミュニケーションを通し、通常の旅行では経験することができない貴重な時間を過ごしました。

また、新興都市アラバンに位置するエリアの最高級ホテル「ザ ベルビュー ホテル マニラ」の施設見学では、研修中の卒業生、西角美理さん（2014 年卒業）、露木理沙さん（2014 年卒業）に施設を案内してもらいました。

「ザ・ベルビューホテル」にて
卒業生の西角さんから説明を受ける学生

左より、西角美理さ、露木理沙さん

2014 年度　研修旅行先

1 年生	昼間部	フィリピン・マニラ、スービック　5 日間
	夜間部	フィリピン・マニラ　4日間
2年生	昼間部	アメリカコース：　ラスベガス、ロサンゼルス　8日間
		ヨーロッパコース：　ローマ、パリ　8日間
	夜間部	アメリカコース：　グアム　4日間
		ヨーロッパコース：　パリ　6日間
	沖縄コース：	外国人留学生対象　5日間

海外からの訪問者

Skal International Asia 前会長 Perez ご夫妻

Skal International Asia 前会長 Gerry Perez 氏とグアム大学准教授 Karri T. Perez 夫人が 1 月 19 日に来校しました。

2015 年度の英語専攻科 1 年生と 2 年生が中心となる日本における Young Skal Club 設立にあたり、Skal International Asia 前会長である Perez 氏との意見交換は貴重なもので、立ち上げに際して必要事項やアドバイスをいただくことができました。

Young Skal Club-Guam を持つ Perez ご夫妻からは、設立後の Young Skal Guam メンバーと日本ホテルスクールの Young Skal メンバーとの交流や活動などの提案がありました。

意見交換後に、本校校舎の施設を見学し充実した設備に Perez ご夫妻は驚いていました。

右から、石塚理事長、Perez 夫人、Perez 氏、
武内副校長、江口先生

ヤングスコールクラブ

スコールクラブでは，次世代を担う人達の育成を視野に、「ヤングスコール」、「スチューデントスコール」という新しい会員のカテゴリーを作り、若い人達の参加を呼びかけています。既にローマでは約 60 人の学生が会員となり、次世代への準備を開始、約 400 のクラブもこうした方向で動きはじめています。

Young Skal Club についての意見交換

施設見学の様子

UPH 理事長補佐が来校

左から川上副校長、石塚勉校長、
リチャード・モラン理事長補佐、
出張氏、石井氏、岡田経理室長

2014 年度昼・夜間部 1 年生の海外研修旅行先であるフィリピン　パーペチュアル大学（UPH）より、リチャード・モラン理事長補佐を含む関係者 3 名が 11 月 25 日に来校し、12 月 8 日より始まる海外研修旅行の受入準備の最終確認を行いました。

UPH 大学とは 2012 年度に提携を結んで以来、お互いの交流が常にトップレベルで行われております。昨年度は 1 年生 400 名以上が海外研修旅行の一環で大学を訪問し、本校とのパートナー関係はさらに深まりました。

本校では教育理念の一つでもある「国際的視野に立脚した人間の育成」を念頭に、欧米、アジアの海外交流の機会を益々増やし、観光産業の発展に寄与して参ります。

2年生 秋の恒例行事“体育祭”を実施
～台東リバーサイドスポーツセンター～

2014年度体育祭を10月24日、浅草の台東リバーサイドスポーツセンターにて開催しました。

昼・夜間部問わず2年生全体で行われる体育祭。夏休みが終わった9月から実行委員会を立ち上げ、約2か月に渡ってこの日のために準備を進めてきました。

前日まで雨が続き、天気が心配されましたが、当日は快晴の中、東京スカイツリーを背に様々な種目を競い合いました。今年は多数で参加できる種目が多かったため、クラス全員で盛り上がっていました。

学生500人規模の人数を巻き込む大イベントのため、スムーズな運営ができるかなど、実行委員会内で心配されましたが、各委員の機敏な働きぶりと協力体制のおかげでスムーズに閉会式まで無事終えることができました。

教職員からも「体育祭の実行委員は協力体制がしっかりしていて、当日まで本当に頑張ってくれました」と学生に労いの言葉が送られました。体育祭実行委員の皆さん、協力してくれた学生、教職員の皆さん、お疲れ様でした。

優勝した昼間部ブライダル科　Dクラスの皆さん

体育祭委員長の挨拶からスタート

選手宣誓

クラス対抗綱引き

男子リレー

女子リレー

応援ダンスに参加する学生

英語専攻科対象　特別授業を実施
～業界で活躍する有識人を講師に迎え～

英語専攻科では、外資系ホテルをはじめ、多くの企業や団体の要人を招いての特別授業を行っています。業界の理解を深め、専門知識や高度なサービスを学ぶ機会になっています。

日本スターウッド・ホテル株式会社　矢島隆彦氏

講義を行う矢島隆彦氏

日本スターウッド・ホテル株式会社 営業・マーケティング本部長　日本・韓国・グアム地区統括矢島隆彦氏が11月20日に来校、昼間部2年生を対象にホテルマーケティングについての特別講義を実施しました。

ホテルマーケティングの分野であるパーソナライゼーションの講義は、専門科目を学んでいる2年生にとっては新鮮なもので、実際のホテルではどのようなことに焦点を当て、お客様を獲得するため、どのようなことに取り込んでいるのかを学ぶことができたようです。

ANAインターコンチネンタルホテル東京　千々岩朋子氏

千々岩朋子氏

ANAインターコンチネンタルホテル東京 人材開発部長千々岩朋子氏が12月5日に来校、昼間部2年生対象に人材開発部の仕事に関する特別講義を実施しました。

多くの学生はホテルの宿泊や料飲、そして宴会の現場での就業・研修経験があるものの、管理部門の経験はありません。学生にとって、人材開発部の仕事がどのようなものか、人材開発部がめざしていることなど詳しく聞くことができ、宿泊部・料飲部以外のホテルの管理部門の業務内容の理解を深める機会になりました。この講義を聞き、将来人材開発部で働きたいと思った学生もいたようでした。

真剣に講義を聞く学生(授業の様子)

トピックス

第1回専門学校日本ホテルスクール サービス技能コンテスト 『JHS杯』を開催

課題「オレンジのカービング」に挑戦

社団法人日本ホテル・レストランサービス技能協会主催のHRSサービスコンクール2015出場者を決める全学年を対象とした校内予選を12月1日に行いました。前回の第8回HRSサービスコンクール2014に出場した在校生が金、銀、銅賞を受賞し、本学生が表彰台を独占したことを契機に、昨年以上に多くの在校生から出場を希望する声があり、今年も校内予選を行うことになりました。

今年は校内予選会を「専門学校日本ホテルスクールサービス技能コンテスト『JHS杯』」として学校の一大イベントとして実施し、1年生42名、2年生15名が出場しました。

優勝は2年　松岡史花さん、準優勝に2年　鈴木梨里さんが選ばれ、2人を含む10名がJHS代表として、HRSサービスコンクール2015出場のための第1次審査として、「世界をリードするおもてなしとは」というテーマのレポート提出、本大会の出場が決まります。

コンクールの詳細は次号のJHSたよりに掲載致します。

「JHS杯」出場者の皆さん

～ＪＨＳ同窓会便り～

第43回JHS同窓大学・九州を開催
～ホテルニューオータニ博多にて～

同窓大学勉強会集合写真　ホテルニューオータニ博多
写真 *前列中央　金森啓示副総支配人(1978年卒)

第43回JHS同窓大学九州を11月8日～11月10日の日程で開催し、九州エリアを中心に活躍中の卒業生、同窓会関係者など18名が参加しました。

福岡での勉強会は、ホテルニューオータニ博多　副総支配人　金森啓示氏(1978年卒業)が「九州のインバウンド事情について」というテーマで講義を行いました。

今回の同窓大学は2年後の創立45周年同窓会に向けた支部の意見交換会の機会もあり、北海道支部より支部長の宮越惣一氏(1974年卒)はじめ、他2名も参加しました。

勉強会風景

同窓大学修了証授与

2日目は鹿児島に移動して、名門旅館である指宿の白水館を訪れ、５万坪の敷地にある隅々まで行き届いた各施設を体験しました。薩摩伝承館に保管されている調度品の数々には圧巻され、ホテル、旅館などを勉強している卒業生にとっても大変有意義な時間となりました。

JHS同窓大学は年に２回、東日本と西日本での開催を基本にして卒業生の相互交流、相互啓発を目的に学長、教授はともに開催地支部の支部長、副支部長が務め、勉強会、懇親会を通して卒業生との交流を行っています。

スコール世界大会2014　メキシコで開催
～50カ国から150クラブの463人が参加～

開会式風景　シェラトン・マリアイザベルホテル＆タワーズにて

メキシコ市のシェラトンマリアイザベラホテル＆タワーズで、スコール世界大会2014メキシコが10月25日～29日に開催され、50カ国から150クラブの463人が参加しました。

世界大会期間中は、開会式に始まり、総会、観光フォーラム、Ｂ２Ｂ、会長主催のガラディナー、観光地視察などが行われ、無事閉会しました。

総会では、会長ら役員の改選時期にあたり、投票の結果、新会長にトルコ・アンタルヤクラブのSalih Cene氏、副会長にニュージーランド・オークランドクラブのNigel Pilkington氏が選出されました。

また、2016年総会の開催地投票が行われ、ローマ、モナコ、ペルーの三者からの誘致合戦の結果、モナコが開催地として決定しました。なお、2015年総会開催地はケニアに決まっています。

ガラディナーでローマ、トルコ、タイ代表の皆さんと一緒に
中央 石塚校長

総会の様子

スコールクラブは、世界の観光業界で最大の民間国際組織で、会員相互の友情を基本に交流を深め、世界的なネットワーキング作りを推進しています。1934年に結成されてから、企業の役員・幹部の会員を中心に運営されてきましたが、若い人材育成の観点から、新しく「ヤングスコール」、「スチューデントスコール」の会員カテゴリーを設け、世界中の若い層にも目を向け始めています。

なお、本校からは、石塚勉校長が日本会長に就任したことから、今回のスコール世界大会2014メキシコに、新たな立場で参加しました。

◆◆◆　同窓会事務局から住所変更手続きのご案内　◆◆◆

JHSホームページ「卒業生の皆様」で住所変更が可能になりました。直接フォームに入力していただくか、「変更届PDF」を印刷し郵送、またはFAXにてお送り下さいい。是非ご利用ください。

■同窓会に関するお問合せは
担当：同窓会事務局　下田憲司
TEL：03-3360-8231　FAX:03-3360-8584　http://www.jhs.ac.jp

トピックス

4名の卒業生が掲載されました
～「ホテル業界就職ガイド2016」～

丸山真司さん

『ホテル業界就職ガイド』(株式会社オータパブリケイションズ発行)本校卒業生のインタビュー記事が"Cover Story"に掲載されました。

掲載されたのは、東京都心から離れた国内有数の避暑地である箱根に佇む、国内ハイアットグループで唯一のリゾート型ホテル「ハイアットリージェンシー箱根 リゾート＆スパ」でフロントオフィススタッフとして活躍している卒業生、丸山真司さん（2012年卒業）です。そして『ホテル業界就職ガイド2016』の表紙にも抜擢されました。

また丸山さんの他、3名の卒業生が掲載されています。東京第一ホテルオキナワグランメールリゾートでコンシェルジュとして活躍されている三上大さん（2012年卒業）が“リゾートで働く　トロピカルリゾート編”ページで、トーコーシティホテル梅田の宿泊部で活躍している香田紫帆さん（2011年卒業）が“新しいホテルグループを自分たちで創っていく醍醐味を楽しみたい”ページで、そして、パレスホテル東京のベルスタッフとして活躍している西岡俊洋さん（2011年卒業）が“ホテルの仕事”紹介ページで紹介されています。

財団ニュース

第4回　学生観光論文コンテスト　表彰式を開催
～賞金総額 100 万円　受賞者決定～

一般財団法人日本ホテル教育センターは、一般社団法人全日本シティホテル連盟の協賛を受けて、公益財団法人日本ナショナルトラストと共催で昨年末、全国の大学・短期大学・専門学校の学生を対象とした「学生観光論文コンテスト」の受賞者を決定しました。

このコンテストは、２０１０年から国土交通省観光庁の政策を支援する意味で開始、日本の観光産業へ若い世代の人達の興味関心を高めること目的としています。

２０１４年度は、①“ 観光立国で日本を元気にする方策について、私の提案 ”、②“ 観光資源保護におけるナショナルトラスト活動の役割について、私の提案 ”、③“ 我が国のＭＩＣＥ（マイス）競争力強化に向けて、私の提案 ” の 3 つのテーマを設定、全国の 27 大学より 49 編の応募をいただきました。うち 6 編が最終審査に進み、10 名の外部審査委員により、優秀賞 2 編、努力賞１編、合計 3 編の受賞者を決定しました。論文の内容は年々よくなってきていますが、残念ながら、今年度は最優秀賞の該当がなく、努力賞が新設されました。

第4回学生観光論文コンテスト表彰式風景

優秀賞【公益財団法人日本ナショナルトラスト会長賞】
立教大学 経済学部経済政策学科 4 年、菊地ゼミ（経済学部）
テーマA「日本観光立国化に向けた新たな旅館像の提言～独自調査から見えた外国人旅行客誘致課題の解決を通して～」

優秀賞【一般社団法人全日本シティホテル連盟会長賞】
琉球大学 観光産業科学部観光科学科 4 年 観光政策研究ゼミ
テーマC「沖縄におけるMICE都市計画～MICE TOWN構想2014～」

努力賞【一般財団法人日本ホテル教育センター】
立命館大学 経済学部経済学科 4 年 寺脇ゼミ
テーマB「宇治茶の新しい食文化を活かした観光振興とその食文化　継承に向けた活動の提案～宇治茶スイーツ店マップの作製とその配布効果の検証～」

表彰式　日時：2015 年 2 月 17 日（火）15：40 ～ 16：25
（受賞理由など審査の総括発表は下記の表彰式および本財団の WEB サイト上にて公開しております。）
お問合せ：事業部 教育事業室 藤原 弘一
TEL：03-3367-5663　http://www.jec-jp.org/

検定に準拠した和食検定入門編テキストの販売を開始
～10月29日(土)の第1回和食検定初級レベル実施に向けて～

和食検定を主催する、一般財団法人日本ホテル教育センターが、和食と和食文化を分かりやすく学習していただけるよう開発を進めていました「和食検定入門編」を発刊いたしました。入門編テキストは、今年 10 月に新たにスタートする「和食検定初級レベル」の準拠テキストとなります。

和食検定「入門編」は、世界無形遺産に登録された日本人の伝統的な食文化である「和食」を大切に育み伝えていくために、初心者向けにその価値と内容を分かりやすく解説する和英対訳版の学習ツールです。既に実務者向けの『和食検定』の基本知識、実務知識を中心とした基本編テキスト、実務編テキストを発刊しており、入門編テキストでは、一般の方々や学生、業界新入社員、外国人留学生に向けて、和食の初歩的な知識を分かりやすくイラストや写真を豊富に掲載し、世界の和食となった「日本人の伝統的な食文化」への理解を深める内容となっています。

入門編テキスト

和食検定テキスト　基本編・実務編

■和食検定に関するお問い合わせ
一般財団法人日本ホテル教育センター
TEL:03-5937-4321　www.wasyokukentei.jp

■テキストのご購入
株式会社プラザ出版
TEL:03-3367-5663　www.plazapub.co.jp

第15期　ホテル産業経営塾・第5期　マイス塾　塾生募集中

ホテル産業経営塾

ホテル塾は、新世紀のホテリエ育成を目指す、新しいタイプの ″ 経営塾 ″ です。

◇2015 年 5 月 15 日～ 2016 年 3 月 18 日
◇全 16 回
◇毎月第 2 及び第 4 金曜日の月 2 回が基本
◇定員 20 名（定員になり次第締め切り）

MICE（マイス）塾

マイスの本質・仕組みを理解し、すぐに役立つ講座を実現します。

◇2015 年 5 月 15 日～ 2016 年 3 月 18 日
◇全 16 回
◇毎月第 1 及び第 3 金曜日の月 2 回が基本
◇定員 20 名（定員になり次第締め切り）

★講義見学は随時、受け付けております。お気軽にご連絡ください。

ホテル塾　第８回講義風景

■ホテル産業経営塾・MICE 塾に関するお問合せ
一般財団法人日本ホテル教育センター
担当：藤原弘一　mail:juku@jec-jp.org　TEL:03-3367-5663

編集責任者：石塚　勉
編 集 担 当：黒沢由美子
連　絡　先：03-3360-8231
kurosawa@jhs.ac.jp